



よりよい地球環境を、あなたとともに。
www.brotherearth.com

At your side.

 JPX-NIKKEI 400

JPX 日経インデックス400 構成銘柄

証券コード 6448

株主通信

125期 第2四半期末号

2016年4月1日▶2016年9月30日

ブラザーの今	1
トップインタビュー	3
事業セグメントの営業概況	7
特集 ブラザーの挑戦	9
連結財務ハイライト	11
ブラザーの取り組み	13
会社の概要	14
株式の状況	裏表紙

At your side.

あらゆる場面でお客様第一に考え、優れた価値を創造し、
迅速にお届けしたい。

“At your side.”という言葉には、
そんなブラザーグループの思いが込められています。

この“At your side.”の精神のもと、
ブラザーグループは、
地球環境に配慮した取り組みを行うとともに、
世界中のお客様が実現したい新しいワークスタイルや
ライフスタイルを、
製品やサービスを通じて応援していきます。



よりよい地球環境を、あなたとともに。
www.brotherearth.com

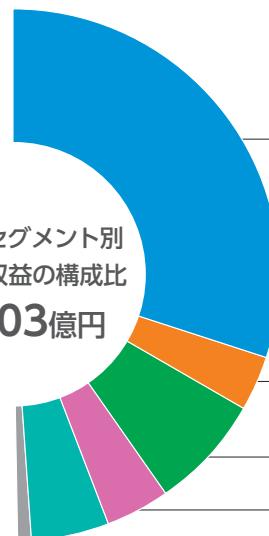
※この株主通信に記載の業績見通しは、作成時点で入手可能な情報に基づく当社判断による見通しであり、さまざまなリスクや不確実な要素を含んでいます。

実際の業績は、これらの見通しとは異なる結果がありうることをご承知おきください。

※この株主通信に記載の表示金額は、億円未満を四捨五入、百万円未満を切り捨てて表示しています。また、各種比率は小数点第二位を四捨五入して表示しています。

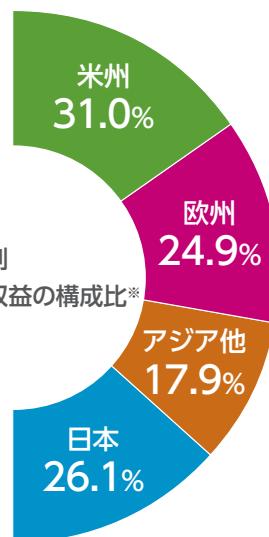
事業展開 (2016年度 第2四半期累計)

事業セグメント別
売上収益の構成比
3,103億円



その他事業 2.1%

地域別
売上収益の構成比※



※当社および連結子会社の所在地による分類

60.2%

プリンティング・アンド・ソリューションズ (P&S) 事業

プリンティング技術を追求め、新しいワークスタイルを提案します。コンパクト性を追求したプリンターのほか、1台にプリンター・ファクス・コピー・スキャナーなどの機能を搭載した複合機、使いやすさにこだわったラベルライターなどがあります。

〈主要製品等〉プリンター、複合機、ラベルライター、ラベルプリンター、スキャナー



6.6%

パーソナル・アンド・ホーム (P&H) 事業

家庭用マシンを中心としたソーイング関連の製品とサービスで、手づくりの楽しさを提案します。また高級刺しゅうマシンにおいては、ITを活用したサービスを通じて手づくりの新しい可能性を広げます。

〈主要製品等〉家庭用マシン、カッティングマシン



14.1%

マシンリー事業

使いやすさ、高品質な縫製、省エネルギーを実現した工業用マシンや、自動車や二輪車、スマートフォンなどの部品加工業界に最適な工作機械に加え、幅広い製品バリエーションを持つ減速機や歯車などを通じて、お客様の生産性向上と新たな価値創出をお手伝いしています。

〈主要製品等〉工業用マシン、ガーメントプリンター、工作機械、減速機・歯車



7.9%

ネットワーク・アンド・コンテンツ (N&C) 事業

業務用通信カラオケシステムの提供を行うとともに、通信カラオケで培ったコンテンツ・配信技術を活用したサービスや製品を提供することで、新たな顧客価値を追求しています。

〈主要製品等〉通信カラオケシステム、カラオケ店舗運営、コンテンツサービス



9.1%

ドミノ事業

ペットボトル、缶、食品の包装などに、賞味期限、ロット番号などを印字する印刷機を提供するコーディング・マーキング事業と、商品パッケージの多種少量化や短納期化の要請に応えたデジタル印刷事業を展開しています。

〈主要製品等〉産業用インクジェットプリンター、デジタル印刷機





未来永劫に繁栄する“強いブラザー”となるため、
持続的に収益を生み出すことのできる
筋肉質な複合事業企業を目指し、
変革に挑戦します。

代表取締役社長 小池利和

まず、2016年度第2四半期連結累計期間の
業績概況について教えてください。

当第2四半期連結累計期間の連結業績は、通信・プリンティング機器が、米国や中国を中心に堅調に推移し、ドミノプリンティングサイエンス(以下、ドミノ)の連結子会社化の効果なども引き続き見られたものの、産業機器が、前年同期に計上したIT関連顧客向けの大口案件が一巡したことによる影響で大幅な減収となったほか、円高に伴う為替のマイナス影響もあり、売上収益は前年同期比9.2%減の3,102億7千万円となりました。

利益面は、円高による為替のマイナス影響に加え、産業機器の大幅減収に伴うマシナリー事業の大幅減益などのマイナス要因があったものの、プリンティング・アンド・ソリューションズ(以下、P&S)事業が、販売促進費の効率化、経費の削減、在庫水準の適正化など、全社単位での取り組みを推進した効果で大幅な増益となったこともあり、事業セグメント利益(売上収益から売上原価、販売費及び一般管理費を控除したもの)は、前年同期比28.1%増の346億7千1百万円、営業利益は、前年同期比19.5%増の361億6千4百万円、親会社の所有者に帰属する四半期利益は、前年同期比27.9%増の269億9千1百万円となりました。

■ 第2四半期連結累計期間の業績 (億円)

	2015年度 第2四半期 累計	2016年度 第2四半期 累計
売上収益	3,415	3,103
事業セグメント利益	271	347
営業利益	303	362
四半期利益*	211	270

*親会社の所有者に帰属

※国際会計基準 (IFRS) 適用

2015年度第2四半期累計はIFRSへ置き換えて表示

※平均為替レート

2015年度第2四半期累計:

1米ドル=121.50円、1ユーロ=134.60円

2016年度第2四半期累計:

1米ドル=106.43円、1ユーロ=119.12円



3つの変革	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事業の変革 2. 業務の変革 3. 人財の変革 						
2018年度 業績目標	<table> <tbody> <tr> <td>売上収益</td> <td>7,500億円</td> </tr> <tr> <td>営業利益</td> <td>600億円</td> </tr> <tr> <td>営業利益率</td> <td>8.0%</td> </tr> </tbody> </table>	売上収益	7,500億円	営業利益	600億円	営業利益率	8.0%
売上収益	7,500億円						
営業利益	600億円						
営業利益率	8.0%						

※為替前提: 1米ドル=115円、1ユーロ=130円

※国際会計基準 (IFRS) 適用

2016年度から新たな中期戦略「CS B2018」がスタートしました。新中期戦略にかける思いを聞かせてください。

現在の主力事業であるプリンティング事業は、主にターゲットとしてきた家庭や小規模オフィスでの印刷ニーズが、携帯端末などの普及に伴い縮小してきているため、従来のような成長を続けることは難しいと考えています。

このような環境の変化に対応するためブラザーは、事業構成をプリンティング事業中心の現在の体制から複合事業企業を目指した事業構成へと移し、収益力を強化することで、次の成長に備えるべきだと判断しました。「変革への挑戦」を掲げた中期戦略「CS B2018」(2016年度～2018年度)は、そのような考え方のもとに策定したものです。

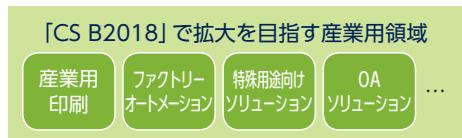
「CS B2018」で描く姿は、持続的な収益力を持つ、いわば“筋肉質な企業体質”を身につけ、どのような厳しい環境下でも勝ち残れる「強いブラザー」です。そのため大きな変革を、今後3年間で進めてまいります。

中期戦略「CS B2018」について、現在の進捗状況を教えてください。

まずは、事業構成の再構築・強化に向けて、2016年4月1日付のブラザー工業における組織変更で大規模な人員の再配分を行いました。主に、収益力強化事業*1であるプリンティング事業に関連する人員を、成長領域事業*2であるマシナリー、ドミノなどの各事業や新規事業へと、過去にない規模で移しています。また開発センターなど、中長期・全事業横断での機能強化を目指した「機能センター」を新たに組織し、グループ全体で産業用領域や新規事業を支援できる体制も整えました。今回の変更により、プリンティング事業を中心としたP&S事業は、今までに比べ、より効率的な事業体制となりました。今後はこの体制を生かし、収益力の強化を進めていくことができると考えています。

もう一つの収益力強化事業であるネットワーク・アンド・コンテンツ (N&C) 事業では、中期戦略の利益目標を達成するため、2016年度より固定費削減を目的とした構造改革に取り組んでいます。これにより、来年度

■ 事業領域の変化イメージ



〈産業用印刷〉

ブラザー起点の産業用印刷の技術・製品ベースに、ドミノとのシナジーを生かしながら、産業用印刷機器を開発
〈ファクトリーオートメーション〉

工業用マシン、産業機器、工業用部品の各事業の自社技術のコラボレーションとIoTなどの活用で、従来の延長ではない事業の立ち上げ

〈特殊用途向けソリューション〉

ラベルライター、ラベルプリンターによる小売業や製造業、物流業におけるソリューションの展開

〈OAソリューション〉

複合機・スキャナー・モバイルプリンターなどオフィスにおけるトータルソリューションの提供

以降の業績改善に、一定の道すじをつけられると考えています。

新規事業については、以前より開発を進めていたレーザーマーカーの販売を開始し、産業用領域を強化しています。また、環境への負荷が小さく、発電効率に優れた次世代のエネルギーシステムであるブラザー独自の燃料電池のサンプル販売を始めました。中期戦略では、「既存事業と連続性があり、3年以内に立ち上がりが見込める新規領域」を対象を絞り、新規事業の創出を進めていく方針としています。

中期戦略では、収益力強化事業においては業務の効率化や経費の削減を行い、成長が期待される事業や新規事業に投資するという方針が核になっています。P&S事業を中心に既にその効果が現れてきており、ここまでの好業績へとつながっています。そういった意味では、まだ中期戦略の初年度ではあるものの、「変革への挑戦」は順調に進んでいると考えています。

*1: 収益力強化事業: プリンティング (家庭や小規模オフィス向け)、N&C事業

*2: 成長領域事業: プリンティング (中小企業向け)、P&H事業、電子文具、マシナリー事業、ドミノ事業

成長が期待されている事業の一つであるドミノ事業について、今後の展望を聞かせてください。

2015年に買収したドミノは、食品や飲料業界を中心に、産業用の印刷事業を世界規模で展開しています。今後は、ドミノの強みである販売力に、ブラザーが長年培ってきたインクジェット、レーザー、サーマルトランスファアの技術力を加えることにより、4年後の2020年には約1,000億円の事業規模を目指します。具体的な連携は既に始まっており、例えば、食品などのパッケージへ賞味期限などを印刷するコーディング・マーキング分野の一部製品のブラザーの工場での生産や、製品ラインアップの刷新・拡充に向けた開発プロジェクトがスタートしています。ブラザーとドミノ双方の技術を結集し、シナジーを最大限に発揮して競争力のある製品群を投入し、産業用印刷領域の拡大を目指します。今後のドミノ事業にご期待ください。

■ 通期の連結業績見通し (億円)

	2015年度 実績	2016年度 予想
売上収益	6,821	6,300
事業セグメント 利益	549	550
営業利益	586	550
当期利益*	412	390

*親会社の所有者に帰属

※国際会計基準 (IFRS) 適用

2015年度実績はIFRSへ置き換えて表示

※平均為替レート

2015年度実績：1米ドル=120.16円、1ユーロ=132.36円

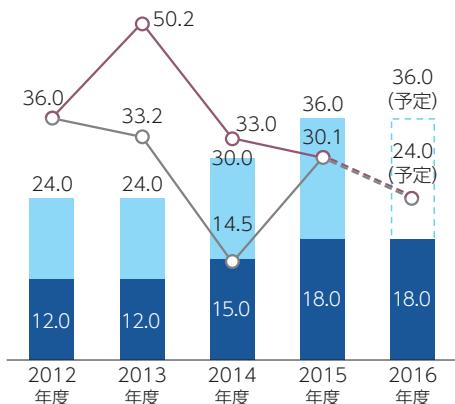
2016年度予想：1米ドル=105.47円、1ユーロ=117.09円



最後に、2016年度の通期の連結業績見通しと、
配当金について教えてください。

■ 1株当たり配当金

■ 第2四半期末 (円) ■ 年間 (円)
○ 連結配当性向 (%) ○ 総還元性向 (%)



※2016年度の連結配当性向はIFRSに基づき算出

2016年度通期の売上収益は、主に産業機器の大幅減、および円高による為替のマイナス影響により、6,300億円となる見通しです。利益面においては上記の要因があるものの、P&S事業を中心にグループ全体で収益性改善に向けた取り組みを推進した効果などにより、事業セグメント利益は、ほぼ前年度並みの550億円となり、営業利益、親会社の所有者に帰属する当期利益につきましては、その他収益の減少などにより、前年度に対し、減益となる見通しです。

2016年度第2四半期末の配当金につきましては、期初予想通り、1株当たり18円とさせていただきます。期末配当につきましても、期初予想通りの18円を予定しており、年間配当は前年度と同額の、1株当たり36円を予定しております。連結配当性向は、およそ24%になると考えております。

プリンティング・アンド・ソリューションズ (P&S) 事業

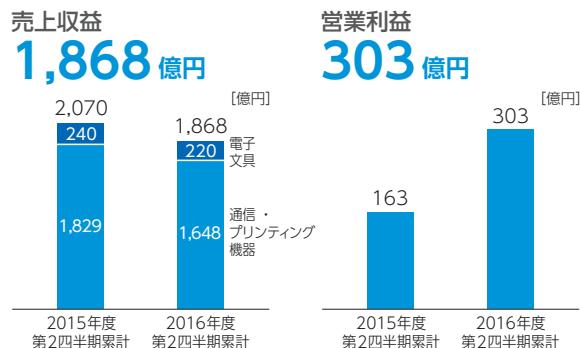
売上収益 〈通信・プリンティング機器〉

米国や中国を中心にモノクロレーザー複合機やインクジェット複合機が堅調に推移するなど、現地通貨ベースでは前年を上回る実績となったものの、円高による為替のマイナス影響が大きく、全体では減収となりました。

〈電子文具〉

各地域とも需要が堅調に推移したことにより、現地通貨ベースでは前年を上回る実績となったものの、円高による為替のマイナス影響が大きく、全体では減収となりました。

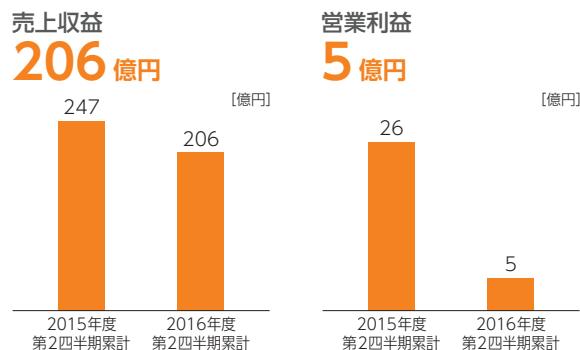
営業利益 円高による為替のマイナス影響はあったものの、販売促進費の効率化、経費の削減、在庫水準の適正化など、グループ全体での収益改善に向けた取り組みを推進した効果により、大幅な増益となりました。



パーソナル・アンド・ホーム (P&H) 事業

売上収益 西欧での販売は好調だったものの、米州において中高級機の販売が想定を下回ったことに加え、円高による為替のマイナス影響などにより、全体では減収となりました。

営業利益 円高による為替のマイナス影響に加え、主に米州において、中高級機の販売が想定を下回ったことにより、大幅な減益となりました。



マシナリー事業

売上収益 〈工業用マシン〉

景気減速を受け中国・アジア地域で需要が伸び悩んだことに加え、円高に伴う為替のマイナス影響もあり、減収となりました。

〈産業機器〉

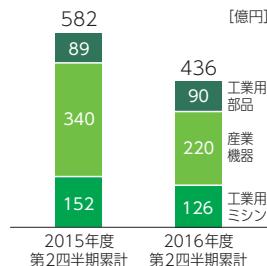
中国のIT関連顧客からのスポット受注があったほか、自動車関連市場向けも堅調に推移したものの、前年同期に計上したIT関連顧客向けの大口案件が一巡したことによる影響が大きく、大幅な減収となりました。

〈工業用部品〉

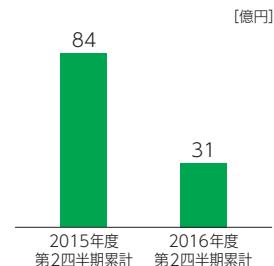
各地域とも堅調に推移し、前年並みの水準となりました。

営業利益 減収に加え、成長に向けた先行投資の増加の影響などにより、大幅な減益となりました。

売上収益
436 億円



営業利益
31 億円

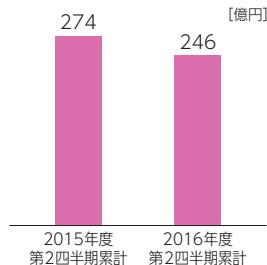


ネットワーク・アンド・コンテンツ(N&C)事業

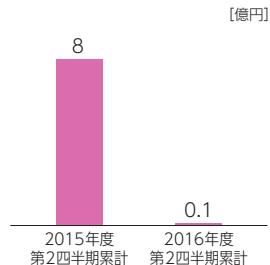
売上収益 昨年投入した通信カラオケ機器の新モデルの投入効果が一巡したことにより、減収となりました。

営業利益 事業セグメント利益は増益となりました。営業利益については、収益力強化のための構造改革に伴う一時費用を計上した影響により、減益となりました。

売上収益
246 億円



営業利益
0.1 億円



ドミノ事業

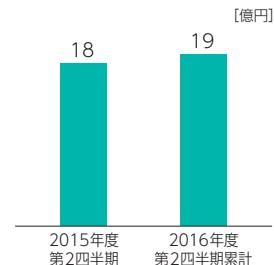
売上収益 新興国の景気減速の影響により、製品本体の販売は計画を下回ったものの、消耗品などの需要は堅調に推移しました。

営業利益 堅調な消耗品需要に支えられ、ほぼ計画どおりの利益水準となりました。

売上収益
282 億円



営業利益
19 億円



※2015年度は第2四半期連結会計期間(7月1日～9月30日)の実績



SMB戦略の起点となる高耐久モデル A4モノクロレーザープリンター・複合機を発売

SMB (Small and Medium Business = 中小企業) 市場への本格参入を図る新製品として、2016年6月に高耐久のモノクロレーザープリンター・複合機「JUSTIO (ジャスティオ)」5機種を発売しました。全ての部品一つひとつを丹念に見直すことで、従来機比2倍の耐久性を実現。また、給紙オプションを拡張し、同価格帯の他社製品を圧倒する最大2,650枚の給紙が可能になりました。印刷量の多いお客様に、これまで以上の顧客価値を提供する製品です。

「JUSTIO」のココがすごい！

低ランニングコスト→約2円/1枚
高速印刷——→最高約50枚/分
高耐久————→約60万枚
給紙可能枚数——→最大2,650枚

プリンター最上位機種種のHL-L6400DW
オプションのメールボックス (MX-4000)
および増設給紙トレイ (TT-4000) を装着



産業領域の強化に向けた新規事業 レーザーマーカ1号機「LM-2500」を発売

2016年7月、ブラザーでは初めてとなるレーザーマーカ「LM-2500」を発売しました。これまでプリンターや工作機械の分野で培ってきた技術を生かし、まるで“家庭用プリンター”のような感覚で使える操作性と安全性、そして高い印字品質を実現。電子機器・自動車部品などはもちろん、ギフトやノベルティなどの多品種少量の印字にも適した製品です。

WHAT?

レーザーマーカとは？

レーザー光を使って、対象物の表面に文字や記号などを印字する製品です。



レーザーマーカ「LM-2500」

「LM-2500」のココがすごい！

- 1. きれい！凹凸の少ない、高精細な印字品質**
ブラザー独自の技術により、シャープで美しい印字を実現
- 2. かんたん！初心者でも使用可能**
直観的な操作で、専門知識のない方でも使用できます
- 3. あんぜん！専用エンクロージャーで安全に作業**
レーザー光を遮断する専用オプションで安全に作業が行えます

レーザーマーカ印字例



Close up

教えて！ドミノ事業

今回は、株主の皆さまの関心が高く、事業内容についてご質問をいただくことも多いドミノ事業についてご説明します。



ドミノ事業推進部
赤尾 隆行

ドミノ事業とは？

2015年6月にブラザー工業の完全子会社となった、英国企業ドミノプリンティングサイエンス（以下、ドミノ）が行っている事業です。ドミノの主要事業は二つ。ペットボトルや食品の包装に賞味期限などを印字するコーディング・マーキング機器と、ラベルなどの商品/パッケージに印刷するデジタル印刷機の製造・販売です。とくにコーディング・マーキング機器については、ドミノはこの分野での世界的なリーディングカンパニーです。今後、ドミノの販売力とブラザーの技術力との相乗効果により、さらなるビジネス拡大を目指します。

ドミノ本社（英国 ケンブリッジ）



ドミノの社長はどんな人？

1997年にドミノのCEOに就任し、2016年4月より、外国人として初めてブラザー工業の執行役員に就任しました。6月の株主総会に参加し、株主総会後に開かれた株主懇談会では株主の方へドミノ事業の紹介などを行いました。



グループ常務執行役員
ドミノプリンティング
サイエンスCEO
ナイジェル ボンド

2016年度のブラザー工業株主懇談会にて株主の方々と交流



主力事業の「コーディング・マーキング」とは？

飲料用のペットボトルや缶、食品の包装などに、賞味期限やロット番号を印字することです。主な顧客は食品や飲料、医薬品のメーカー。工場のラインに印刷機械を組み込み、消耗品を提供するというビジネスモデルです。近年のトレーサビリティ*1への関心の高まりや偽造品防止という観点からも、大きな成長が期待できる事業であり、とくにアジアでの市場拡大が見込めます。

*1：商品の流通経路が、生産段階から最終消費段階あるいは廃棄段階まで追跡可能な状態をいいます。



コーディング・マーキングの一例



顧客の工場の製造ラインで賞味期限やロット番号などを印字します

成長が期待される「デジタル印刷」とは？

インクジェット技術を用いた商品パッケージ用のラベルなどの印刷です。消費者のニーズの広がりに応え、多品種少量の印刷に短納期で対応できる「デジタル印刷」の需要は大きく伸びており、今後の市場の成長が見込まれています。



デジタル印刷の一例

事業の展開エリアは？

世界規模で展開しています。製品は、欧州、アジア・太平洋、米州、中東・アフリカの120カ国以上で販売しており、世界で約2,600名の従業員が働いています。主な生産拠点は、英国、米国、中国などです。



決算のポイント

売上収益

IT関連顧客向けの大口案件が一巡したことによる影響で産業機器が大幅減となったことに加え、円高による為替のマイナス影響もあり、前年同期比で減収となりました。

営業利益

主に事業セグメント利益の改善により、前年同期比で増益となりました。

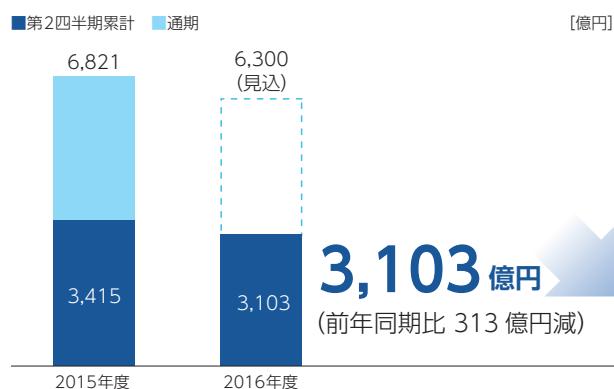
事業セグメント利益

P&S事業を中心にグループ全体で収益性改善に向けた取り組みを推進した効果などにより、前年同期比で増益となりました。

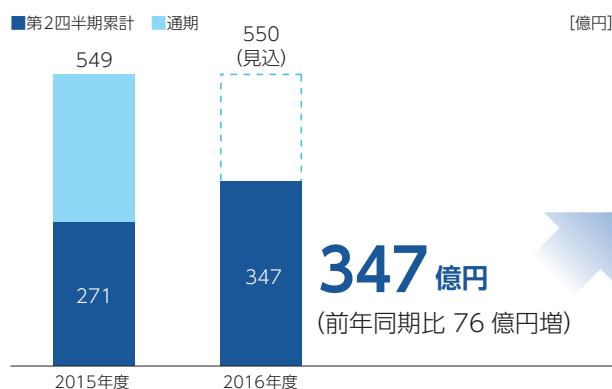
親会社の所有者に帰属する四半期(当期)利益

営業増益に伴い、親会社の所有者に帰属する四半期利益も前年同期比で増益となりました。

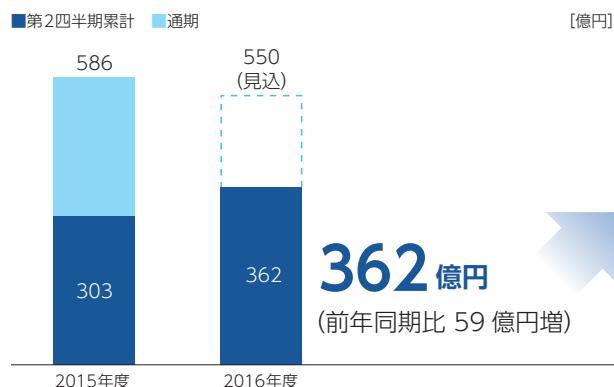
売上収益



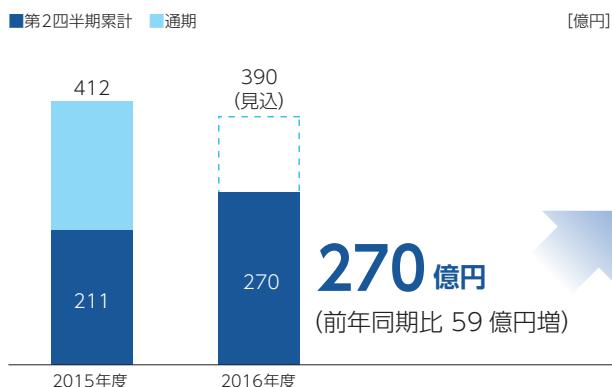
事業セグメント利益



営業利益



親会社の所有者に帰属する四半期(当期)利益



ブラザーグループは、2016年度第1四半期から、国際会計基準 (IFRS) を適用しています。そのため、当報告書から売上の計上方法やのれんの会計処理、表示科目の変更をしています。

財政状態計算書

資産の部

[億円]



負債・資本の部

[億円]



決算のポイント

資産合計

円高によるのれん及び無形資産の減少などにより、前連結会計年度末に比べ571億円減少し、6,182億円となりました。

負債合計

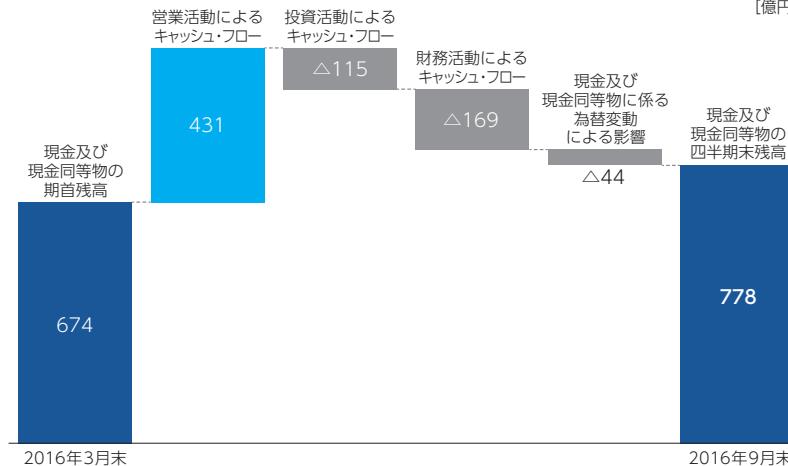
借入金の減少などにより、前連結会計年度末に比べ210億円減少し、3,043億円となりました。

資本合計

利益剰余金が増加したものの、円高による在外営業活動体の換算差額のマイナスの増加などにより、前連結会計年度末に比べ361億円減少し、3,139億円となりました。

キャッシュ・フロー計算書

[億円]



決算のポイント

営業活動によるキャッシュ・フロー

税引前四半期利益は371億円となり、減価償却費及び償却費170億円など、非資金損益の調整などによる資金の増加があり、法人所得税の支払額51億円などを差し引いた結果、431億円の資金の増加となりました。

財務活動によるキャッシュ・フロー

長期借入金の返済による支出106億円、配当金の支払額47億円などにより、169億円の資金の減少となりました。

マシナリー事業の戦略拠点、刈谷第6工場が竣工

2016年7月11日、刈谷工場（愛知県刈谷市）に新たに建設された第6工場の竣工式が行われました。新工場の延床面積は約23,000m²で、これで刈谷工場全体の延床面積は10万m²の規模となりました。

刈谷工場で主に生産しているのは、スマートフォンの部品や自動車部品を生産する際に使われる工作機械です。工作機械の市場は需要変動が激しく、新中期戦略「CS B2018」の柱の一つであるマシナリー事業の成長戦略として、急増産の需要に素早く対応する生産性の向上が重要課題となっていました。第6工場の稼働によって、刈谷工場の生産能力はこれまでの1.5倍となり、大量受注に対応できる体制が整いました。

また、工作機械の一部の重要部品の生産はこれまで外注に頼ってきましたが、第6工場に導入された新設備によって、その一部を社内生産することができるようになりました。さらに、同工場の生産数量が少ない時は倉庫として活用することで、外部倉庫の借用による物流コストの削減が期待できます。



刈谷工場（白くハイライトした部分が新工場）

名古屋市科学館プラネタリウムのネーミングライツ契約更新

ブラザー工業は2011年、名古屋市科学館の世界最大のプラネタリウムのネーミングライツ（命名権）を取得し、「Brother Earth（ブラザーアース）」と名付けました。「Brother Earth」は、ブラザーグループが掲げる環境活動のスローガンでもあり、「次世代を担う子どもたちが、宇宙への興味と理解を深め、美しい地球の大切さを再認識してほしい」というブラザーの思いが込められています。この命名権の契約満了に伴い、2015年度末に、5年間の契約更新を行いました。

プラネタリウムへの来場者は既に300万人を超えています。今回の契約更新を機にプラネタリウムの座席のカバーにブラザーのロゴが入り、来場者の皆さまに、より一層ブラザーを身近に感じていただけるようになりました。



2016年3月19日に行われた契約調印式にて。河村たかし名古屋市長と社長の小池

IR活動報告

名証の株式投資サマーセミナーに参加

2016年9月13日に開催された、株式投資サマーセミナー（名古屋証券取引所主催）に参加しました。プレゼンターとして、常務執行役員の浅井が登壇。約350名の来場者に、ブラザーの事業内容や業績についてご説明しました。今後も、より多くの投資家の皆さまにご支援いただけるよう、積極的なIR活動に努めます。



会場は名古屋市中電ホール

株主アンケートの結果を株主通信に反映

第124期決算号にて実施した「株主アンケート」では、5,193名（22.9%）の方からご回答をいただきました。貴重なお意見とご協力、誠にありがとうございました。

株主の皆さまからのご意見をもとに、今回、株主通信の改訂を行いました。誌面デザインでは、「見やすさ」と「わかりやすさ」を追求して、文字や図表を改善。記事内容としては、掲載のご要望の多かった「ドミノ事業」や「ブラザーの取り組み」を、特集としてご紹介しています。

これからも皆さまからのご意見を誠実に受け止め、今後の経営やIR活動に反映させていきたいと考えております。

会社の概要

基本データ (2016年9月30日現在)

商号	ブラザー工業株式会社 (BROTHER INDUSTRIES, LTD.)
本社	〒467-8561 名古屋市瑞穂区苗代町15番1号 TEL: 052-824-2511 (代表)
設立	1934年1月15日
資本金	192億9百万円
上場証券取引所	東証1部、名証1部
従業員*	連結: 37,390名 単独: 3,907名 *正社員のみ

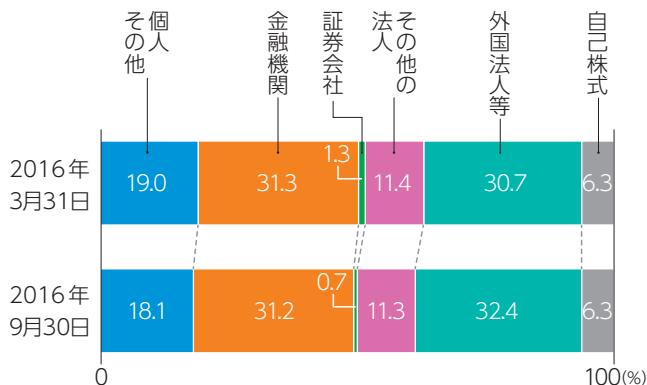
役員 (2016年10月1日現在)

取締役	代表取締役社長	小池 利和	執行役員	常務執行役員	浅井 侯序
	代表取締役 専務執行役員	石川 茂樹			石川 博
	代表取締役 常務執行役員	佐々木 一郎			松本 勇美夫
	取締役 常務執行役員	神谷 純			亀之内 孝文
		石黒 雅			川那辺 祐
	取締役	長谷川 友之		執行役員	鈴木 雅彦
	社外取締役	平野 幸久			服部 親将
		西條 温			若原 宏之
		服部 重彦			久野 光康
		深谷 紘一			武田 進
		松野 聰一			星 真
					野地 勲
					桑原 悟
監査役	監査役(常勤)	藤井 宗高			村上 泰三
		日野 圭一			鈴木 剛
	社外監査役	海野 隆雄			小出 哲郎
		有田 知徳		グループ常務執行役員	ナイジェル ボンド
		小野木 孝二		グループ執行役員	三輪 祐司
					只 雄一
					池田 和史
					三島 勉

株式の状況

株式の分布状況 (2016年9月30日現在)

発行可能株式総数 600,000,000株
 発行済株式総数 277,535,866株
 株主総数 20,432名



大株主 (上位10名) (2016年9月30日現在)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY*	20,446	7.37
日本生命保険相互会社	11,798	4.25
日本スタートラスト信託銀行株式会社(信託口)*	11,181	4.03
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)*	11,013	3.97
株式会社三井住友銀行	7,398	2.67
ブラザーグループ従業員持株会	4,702	1.69
住友生命保険相互会社	4,499	1.62
CBNY-ORBIS SICAV*	4,028	1.45
朝日實業株式会社	3,900	1.41
株式会社三菱東京UFJ銀行	3,796	1.37

注1: 持株数は千株未満を切り捨てて表示しています。
 注2: 持株比率は小数点第3位を四捨五入して表示しています。
 注3: ※印のある株主の所有株式は、全て当該各社の信託業務にかかる株式です。
 注4: 上記のほか、自己株式が17,555千株(持株比率6.33%)あります。

株主メモ

事業年度 4月1日～翌年 3月31日
 定時株主総会 毎年 6月
 期末配当金受領株主確定日 3月31日
 第2四半期末配当金受領株主確定日 9月30日
 基準日 3月31日
 公告掲載URL <http://www.brother.co.jp/investor/>

※ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告によることができないときは、日本経済新聞に公告します。

株主名簿管理人/特別口座の口座管理機関
 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 東京都江東区東砂7丁目10番11号 〒137-8081
 TEL: 0120-232-711 (通話料無料)

※株主さまの住所変更その他各種手続きにつきましては、株主さまご自身が口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)にて承りますので、詳細は各口座管理機関へお問い合わせください。
 ※特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行株式会社までお問い合わせください。

IRウェブサイトのご案内

当社IRウェブサイト「株主/投資家の皆様へ」において、株価をご覧いただけるようになりました。最新のIR情報など、さまざまな情報を提供しておりますので、ぜひご覧ください。

<http://www.brother.co.jp/investor/index.htm>

ブラザー工業株式会社

本社 〒467-8561 名古屋市瑞穂区苗代町15番1号

<http://www.brother.co.jp/>



環境に優しい「水なし印刷」を採用。大気中に揮発性有機物を排出しません。



インキの石油系溶剤を大豆油主体とした植物系溶剤に100%置き換え、VOC(揮発性有機化合物)フリーとしました。



ミックス
 責任ある木質資源を使用した紙
 FSC® C015878